

八尾歴史物語

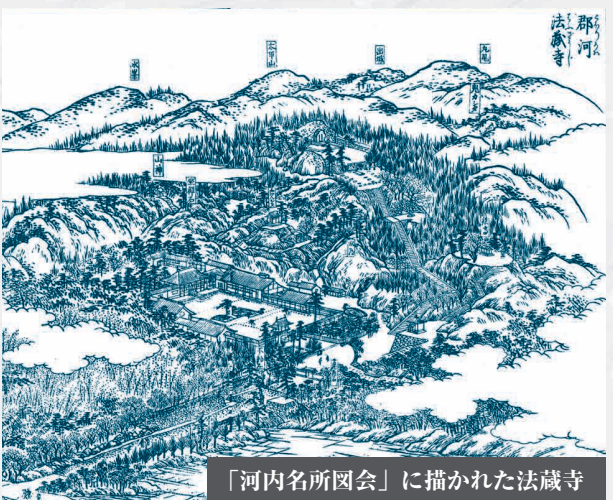
四九巻

河内名所図会をあるく②〜東高野街道・中編（千塚）（せんづか）

江戸時代の観光ガイドブック

『河内名所図会』（以下「図会」）を片手に、大坂夏の陣のゆかりの地、神立にある玉祖神社たまのおやを参拝したあと、東高野街道には戻らず、もう少し山麓を南に進むことにしましょう。江戸時代よりはるか昔の遺跡「千塚」を訪ねます。

「千塚」とは、近畿地方有数の大型群集墳で、数多くの古墳が連なる高安千塚古墳群です。現代では、世界遺産になった堺市の百舌鳥・古市古墳群のように古墳巡りをするのは珍しくありませんが、当時の観光といえ



「河内名所図会」に描かれた法蔵寺

ば、寺社への参詣がほとんどでした。そのような中、観光として高安千塚古墳群を訪れる理由は何だったのでしょうか。

実は、古墳の埋葬施設である横穴式石室を、はるか昔の人々の住まい

だと思つて見学していたのです。さらには石室に納められた副葬品を宝物として持ち帰ることもありました。おそらく、たくさんの人々が石室に出入りしたことででしょう。図会の法蔵寺に描かれた挿絵では、境内の建物と

ともに、古墳が描かれています。その位置関係は分かりやすく、お寺の参拝に合わせた古墳の見学は容易だったでしょう。

法蔵寺の参道を西に下って、再び東高野街道に戻ります。この東高野街道を隔てて東西にある、高安千塚古墳群が造られるきっかけとなった前方後円墳、郡川西塚古墳と郡川東塚古墳を眺めながら進み、古墳巡りはこれで終了としまし

しょう。【続く】

☆問合せ 文化財課

☎ 924・8555

FAX 924・3995